令和3年度　上田市立傍陽小学校　自己評価シート　　A：達成できた　B：概ね達成できた　C:達成までに努力が必要である　D：達成までにさらなる努力が必要である。

評価方法　ア…教師自身による評価　イ…校長による評価　ウ…子どもの評価　エ…保護者からの評価　オ…学校関係者による評価　　**令和４年３月**

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価
にこにこ笑顔 どきどき挑戦 どんどん響き合う 傍陽の子	○健やかな心と体…命と健康を大切にする子ども、友達とともに体を動かし遊ぶ子ども ○確かな学力…課題を持って粘り強く解決する子ども、自分の考えを持ち深める子ども ○豊かな心…思いやりの心で友達に接し、互いに協力し合える子ども	・コロナ禍であったが、新たに貸与されたタブレット端末に楽しみを見いだしながら積極的に取り組んだ。 ・３密回避のため、タブレット端末に付帯のツール「Ｍｅｅｔ」を使い、対面ではないものの、教えあいや学び合う活動に活気が見られた。 ・制限のある活動になっても、与えられた課題に粘り強く取り組める子が多かった。どのような環境下であっても「学校は楽しい」と感じられる活動を仕組むことや、新たな活動に果敢に取り組める挑戦心が育つよう授業力を更に向上させていきたい。

今年度の重点目標			成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
1	太陽のような笑顔のあいさつ	アイウエオ	・教師が率先して挨拶するとともに、児童会活動で挨拶運動を実践した。 ・コロナ禍で歌を思う存分歌うことは難しい。 ・従来の活動にはない新しい活動にも楽しみを見いだしている子どもが多く見られた。		○			・コロナ禍における沈滞しがちな雰囲気を打開するためにも、明るく、元気な挨拶を教師自ら見本となり雰囲気をつくっていくことを大事にしたい。 ・例えコロナ禍が継続したとしても、考え方の視点を変えることで価値ある活動へ昇華できることを、子どもと共に考えた活動で実証していきたい。
2	歌声のあふれる学校	アイウエオ				○		
3	楽しさを味わえる本気の取り組み	アイウエオ		○				

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価方法		A	B	C	D	
学校教育	学習指導	自ら課題を持ち追究する	子ども自身が課題を持って追究できるよう授業や単元を工夫し指導を行ったか。	アイウエオ	・タブレット端末の利用を通し、試行錯誤しながら取り組む姿に追求心の強まりが見られた。		○			・どこに興味を示し、どのような投げかけで追求のきっかけができるのかを日頃からその実態把握を適切に行う。
		互いの考えを聞き話し合い、自分の考えを深める	課題を解決するために、互いの考えを伝え合い話し合うことを通して、自分の考えをさらに深めていくことにつながる指導を行ったか。	アイウエオ	・ペア、グループで考えを出し合う場面で、タブレット端末を用いることで、個々の考えが瞬間的に共有でき、言葉を発する以外でも互いの考えを深め合える学習形態が発見できた。	○				・表現の方法は多様であることを教師自身が体験するためにも、一層タブレット端末を用いた実践を深めたい。 ・教師間でうまくいった実践を共有できる場を設ける。
		表現を通した心の解放	多様な表現方法に触れ、自らの表現をしながら、自分の良さを発揮できるよう指導を行ったか。	アイウエオ	・言葉を発すること以外でも自己表現が可能であることを、物静かな子が実感できた成果は大きい。		○			・文章を書くことが苦手な子、声に出すことを恥ずかしがり、なかなか自身の思いを表現できなかった子にとって、有効に働く可能性のあるツールとしてタブレット端末利用積極的に活用していく。
		「わかった」「できた」が実感できる授業づくり	授業のユニバーサルデザイン化や、授業の振りかえりなどを通して、学習の中で充実感や満足感を得られるような指導を行ったか。	アイウエオ	・児童の興味関心に応じた内容にすることで、意欲の向上につながった。 ・学びのつまずきに対して、個別指導に頼ることが多い。		○			・読むこと、書くこと、聞くこと、話すことのどこにつまずきがあるのかを分析的に把握する。 ・学級の実態に応じたユニバーサルデザイン化を探り、授業づくりに活かす。
	生徒指導	挨拶・返事・感謝の言葉	教師が子どもと関わりながら、「はい」の返事・「ありがとう」の感謝の言葉を伝え合い、コミュニケーションに結びつける指導を行ったか。	アイウエオ	・日常の生活の中で教師が進んで「ありがとう」の声をかけるよう心掛けた。 ・子どもの生活・活動の中で「はい」「ありがとう」のことばをかけ合うようにしてきた。		○			・挨拶指導を継続する。場に応じた挨拶ができるよう指導をする。常に職員が見本となって挨拶をする。 ・日常生活に簡単にできる「お願い場面」をつくり、「お願い」と「ありがとう」が力まずいえるようにする。
		自他を大切にし、共に伸びる喜び	互いを認め合い、支え合う人間関係を人権教育の視点に立って指導したか。	アイウエオ	・コロナ差別も含め、日常的に人権意識を高める投げかけが行えた。		○			・縦割り班のほか、連学年で授業を行い、広い人間関係の構築に努める。
学校運営	学校づくり	**家庭との連携・コロナ禍の状況に応じた対応**	子どものよりよい成長を願うことを基盤に、保護者との連絡を密にし共通理解を形成しながら教育活動の充実に努めることができたか。	アイエオ	・コロナ対応についての連絡を安心メールを通して随時行うことができた。 ・オンラインを使った懇談会、講演会を実施することができた。	○				・直接顔をあわせて話す機会をとらえ、子どものよさや気になることを伝える。 ・大人が困るという視点からではなく、困った行動になってしまう子ども自身の困り感に共感できるようにしていきたい。
			コロナ禍にあり、状況に応じた学習を仕組み、教育活動の充実に努めることができたか。	アイエオ	・活動時期や内容の変更に粘り強く取り組み、活動自体を中止することなく、また子どもの意欲を削がない活動で実施することができた。	○				・今後も継続して、目的を失わずできる活動を工夫しながら実施していきたい。
		情報発信	学校の願いや児童が活躍している様子等が伝わる情報が発信できたか。	アイエオ	・学年だより、学校だより、ホームページを通じて学校の様子を定期的に発信できた。		○			・子どもの様子を伝えるほか、学校の願いや活動のねらいなども伝えていくことで、発信の質を高めていく。